

第2回町田市下水道事業計画評価懇談会における意見及び対応一覧【次期アクションプラン】

No.	意見内容	対応	該当箇所
1	約5年後に実施予定の「町田市下水道ビジョン」の見直しなどを見据えて、町田市の下水道事業の長期的なあり方について、取り組み項目の頭出し等を行ってはどうか。	第1章、3.「事業の方向性と計画期間」に計画期間内に取り組む事業の方向性を追記しました。	2ページ
2	「小施策」を設定した旨を、本編においても説明した方がよいのではないか。	「町田市下水道アクションプラン（2012年度～2016年度）」において設定した「施策体系」を「小施策」と名称変更した旨を記載しました。	3ページ
3	現アクションプランの39事業と次期アクションプランの35事業の関連性について、わかりやすく記載することが必要ではないか。	施策体系及び事業の見直しについて、両アクションプラン間の関連がわかるよう、図を用いた説明を記載しました。	3、5～6ページ
4	次期アクションプランにおける新規事業について、新規に加えた背景を記載した方がよいのではないか。 （「水路等の維持管理の推進」「腐食環境下にある下水道管の点検の実施」「污水管への浸入水対策の実施」「地方公営企業法の適用」「経営戦略の策定」）	左記5事業について、新規事業として加えた背景を記載しました。	4ページ
5	9～22ページにある各事業の指標と目標の表について、7ページと同様に事業番号を加えた方がよいのではないか。	各事業の番号を記載しました。	9～22ページ
6	施策Ⅰ-3、小施策②、事業「未利用エネルギーの活用」について、数値目標などの具体的な目標を記載してはどうか。	太陽光発電、バイオマス発電、下水熱利用の3分野について導入に向けた調査や試験を行う予定ですが、効率性やコスト面を考慮し、実現可能なものについて2021年度から技術導入を行うことを、事業12の目標としました。	14ページ

7	施策Ⅱ-1、小施策①「ハード対策の促進」の「5ヶ年の目標」にある「浸水対策達成率」は、定義からすると「雨水管整備面積率」とした方が適当なのではないか。	「5ヶ年の目標」の指標を「雨水管の面整備率」に変更しました。	15ページ
8	施策Ⅱ-1、小施策②「ソフト対策の促進」において、市民の迅速な対応をサポートするような情報共有や市民との役割分担を作っていくような試みに取り組んではどうか。	市民と協働した取り組みについては、他部署とも連携して取り組んでいく必要があるため、施策Ⅱ-1、小施策②、事業「自助を啓発する広報や情報提供の充実」において検討し、進めていくこととしました。	16ページ
9	施策Ⅲ-2、小施策②「サービス向上への取り組み」の「5ヶ年の目標」にイベント来場者の下水道事業についての理解度80.0%以上とあるが、イベント来場者に限らず、より広範囲で理解度を測ることを検討してはどうか。	理解度を測る対象をイベント来場者に限らずより広範囲に変更する方向で考えており、「5ヶ年の目標」の指標を「下水道事業についての理解度」に変更しました。理解度を測る方法として現在検討しているものは、市ホームページや市民意識調査、広報紙「下水道通信」を用いたアンケートの実施や、来庁者を対象とした市庁舎でのアンケートの実施などがあります。	22ページ
10	施策Ⅲ-2の小施策②「サービス向上への取り組み」について、施策にある「下水道財政の確立」との関連性がわかりづらい。下水道利用者との連携という切り口で、新たな施策を作った方が良いのではないか。	「町田市下水道ビジョン」策定当初、『下水道事業への理解度が向上すると、下水道の適正利用が促進され、汚水処理費用や下水道施設の維持管理費の低減にも繋がる』という考えから、当該小施策を施策Ⅲ-2「持続可能な下水道財政の確立」に含める形としました。いただいた意見のとおり、持続可能な下水道財政の確立とサービス向上への取り組みの関連性がわかりづらいという点は理解しております。「町田市下水道ビジョン」改定の際にわかりやすい形へ変更したいと考えています。	—
11	次期アクションプランの計画期間は5ヶ年であるが、より長期的な計画を示したうえで細かい説明をした方がわかりやすいのではないか。	アクションプランは今後5年間の実行計画であるため、長期的な計画については今後策定予定の経営戦略等を用いて情報提供することを検討しています。	—
12	市民へ無料配布する予定の概要版について、どのような形になるのかを示していただきたい。	第3回町田市下水道事業計画評価懇談会において概要版の案を提示することとしました。	(資料5)